

准教授 東條 文治

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例	2016. 8. 17・25・26	教養講座（自然）において学外授業を行った。本学と連携協定を結んでいる豊橋市自然史博物館において、博物館を活用した教育活動を実践した。動植物図鑑の作成、博物館の展示学習、バックヤード見学、骨格標本を使用した学習活動、動物の歯のレプリカ作成等を行った。博物館の教育資源を活用し、実感を伴った理解を目指す授業展開の実践となった。

職務上の実績に 関する事項	年 月 日	概 要
モロッコ産ゴニアタイト化石 の分類学的研究と教材開発	2016年度	科学研究助成金、基盤C、による研究活動。研究代表者としてモロッコにおいて化石産地調査を行い、教材となる化石試料を採取した。採集した化石の分類群を整理し、クリメニア目の化石の同定によって、産地となる地層の形成年代がデボン紀であることを特定できる教材を開発した。

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
◎学術論文 示準化石教材に使用するゴ ニアタイト化石の分類群に ついて	共著	2017. 3	名古屋芸術大学研究紀要、 第38巻	モロッコから産出する古生代ゴニアタイト化石を使った教材開発を行った。示準化石として化石の同定から地層の時代を推定することができる化石の分類群の特定を行った。モロッコの化石産地の調査を行い、採取した化石試料を検討したところ、さまざまな分類群のゴニアタイト化石が採集できた。この中でクリメニア目の化石種はデボン紀からのみ産出するため、これが教材として重要であることが明らかになった。(東條文治・安井謙介) 図本文は東條が担当、現地調査と化石採集は東條と安井が担当。(pp. 195-200)